

低学年児童期の 学習

～保護者のみなさまへ～



第2回

「読む力」の習得が全ての教科学習の出発点



子どもの正式な学習活動は、**小学校入学**をもって始まります。つまり、**6歳頃**から一貫したカリキュラムや指導の下で読み書きや計算などを子どもたちは**学ぶ**ことになります。これは世界的に共通のようで、教師がボードに書く文字を一定距離から視覚的にとらえること、鉛筆を握って文字を書くことのできる年齢が6歳頃であることと関係しているようです。



ただし、日本の子どもの多くはすでに**2～3歳頃**から文字や数字に触れています。したがって、先行体験の豊かな子どもは小学校入学時点で読みがかなり達者になっていますし、なかには漢字も書ける子どもがいます。さらには、算数の足し算や引き算が結構できるようになった子どもも少なくありません。では、**そういう子どものほうが常に学業面でのアドバンテージを維持しているのでしょうか。**専門家によると、実際にはそうではないようです。



たとえば**読み書き**を例に考えてみましょう。文字を読んだり書いたりすることを早くから教えられても、それは子どもの知的興味からではなく、大人にあてがわれて始めたものです。したがって、がんばっている子どもでも、**親が喜び、ほめてくれることが動機づけ**になっているケースが大半で、**真に身につけているわけではありません。**そもそも**文字は人間社会で生じた必要性から発明されたものです。**目の前にいない人間との交信や意思伝達への強い願望が文字を生み出したのです。**子どもが文字を学ぶにあたって、実際に使うことの利便性を肌で感じてこそ、学習は地に足のついたものになります。**



このつづきは、**会員限定（会員専用ページ）**でお読みいただけます。

- 3年部で入会をご検討の場合、個別授業体験をいつでも受け付けております！！
1～3年サンプルや案内資料のご希望もお気軽に！